

小 売 業 54 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

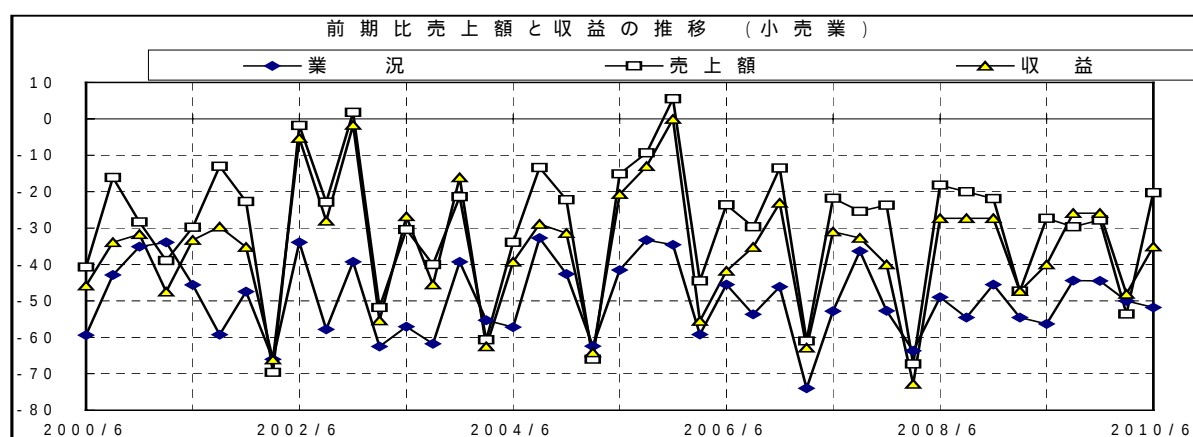
□ 景 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-44.5	-50.0	-51.8	-37.0
売上額	-27.8	-53.6	-20.3	-11.1
収益	-25.9	-48.1	-35.1	-14.8

が縮小し 33.3、13.0 ポイント上昇した。

今期の業況判断 DI 値は 51.8 と、前期比マイナス値が 1.8 ポイント拡大し 3 期連続の悪化となった。地区別にみると、浦河、様似地区が改善し、広尾地区が横ばい、静内、三石、えりも地区で悪化している。

売上額、収益判断 DI 値は、売上額が 20.3、収益が 35.1 と、前期比それぞれマイナス値

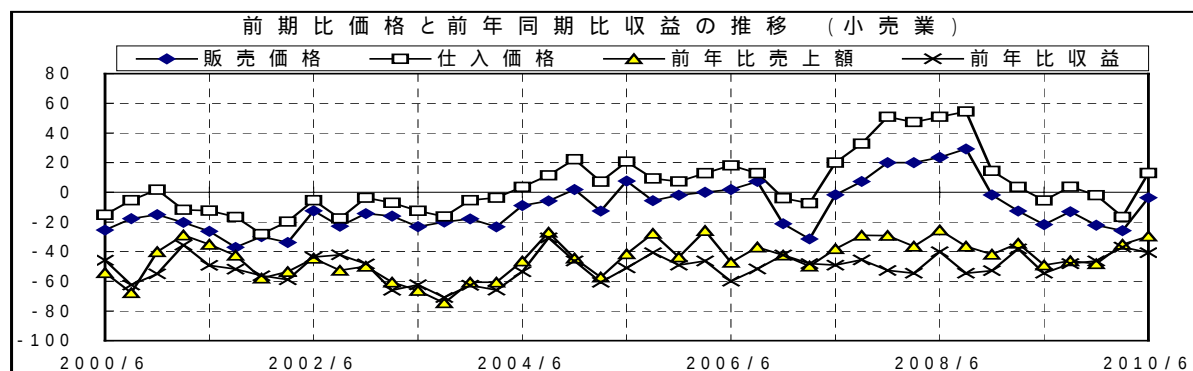


□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
販売価格	-22.2	-25.9	-3.7	-14.8
仕入価格	-1.9	-16.6	13.0	-3.7

価格で上昇、食料品、家電品が販売、仕入価格ともに上昇している。

販売価格判断 DI 値(-3.7)は、前期比マイナス値が縮小し 22.2 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断 DI 値(13.0)は、前期比マイナスからプラス値に転じ 29.6 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、衣料品が販売価格で低下、仕入



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-12.9	-20.4	-13.0	-7.4
人手状況	-1.9	13.0	13.0	3.7

残業時間判断 DI 値は 13.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比 7.4 ポイント上昇した。

人手過不足判断 DI 値は 13.0 と、前期比横ばいの人手過剰感となっている。

□ 設備投資の動き

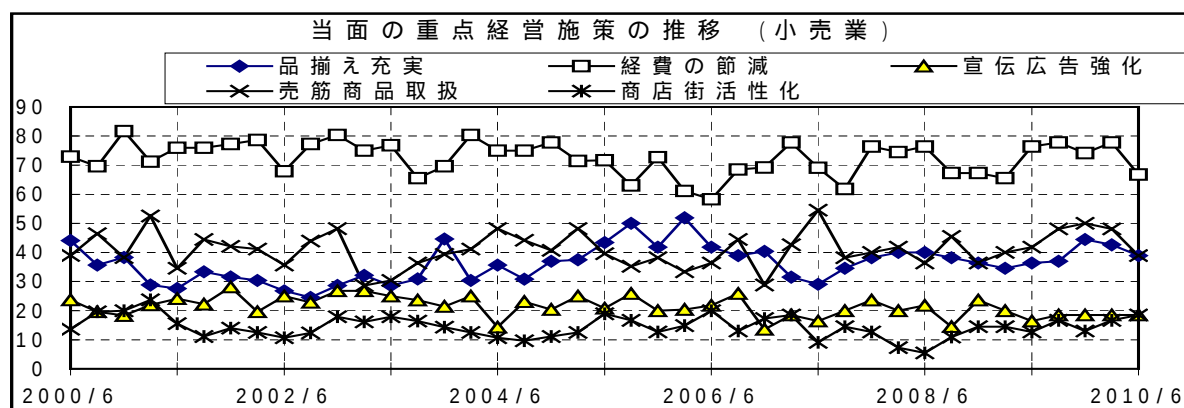
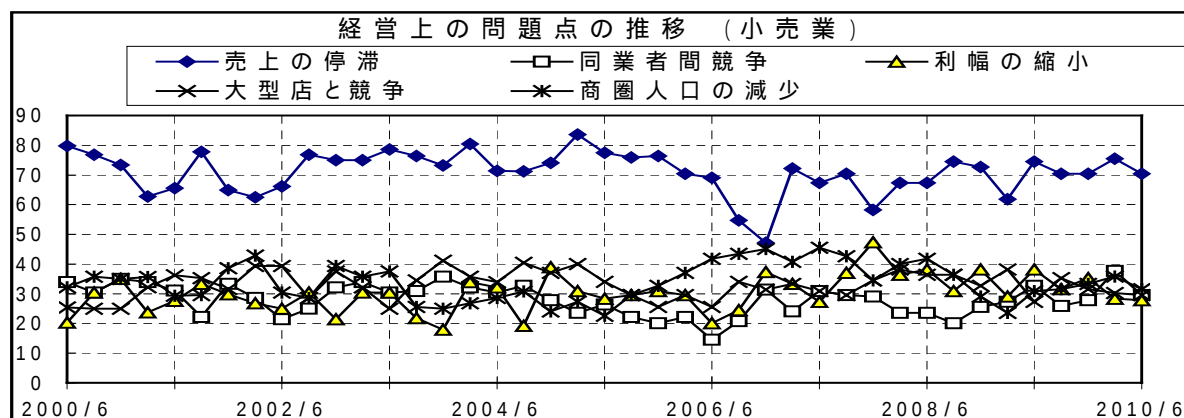
設備投資の充足感を示すD I 値は 11.1 と、前期(3.7) からマイナス値が拡大し 7.4 ポイント低下、不足感を強める一方、適正と回答した企業は 77.7%と、前期(77.7%)と変わらず同じ割合となった。

設備投資実施企業割合は 11.1%と、前期(9.3%) 比 1.8 ポイント上昇、件数で前期の 5 社に対し 6 社の実施となった。来期予定は当期比横ばいの 6 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 70.4%、次いで「商圈人口の減少」31.5%、「同業者間との競争」29.6%、「利幅の縮小」27.8%の順に続き、前期との比較では「天候の不順」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、衣料品が「売上の停滞」、家電品が「大型店との競争」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 66.7%、次いで「売れ筋商品取扱」、「品揃えの充実」38.9%、「宣伝広告の強化」、「商店街活性化」、「仕入先を開拓選別」18.5%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「品揃えの充実」、食料品が「経費の節減」、家電品が「経費の節減」、「売れ筋商品取扱」、「仕入先を開拓選別」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成 22 年 7~9 月期)の予想業況判断 D I 値は 37.0 と、今期(51.8)実績比 14.8 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断 D I 値は、売上額が 11.1 (今期 20.3)、収益が 14.8 (今期 35.1) と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し 9.2、20.3 ポイント上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断 D I 値は、販売価格が 14.8 (今期 3.7) と、今期実績比マイナス値が拡大し 11.1 ポイント低下、仕入価格が 3.7 (今期 13.0) と、プラスからマイナス値に転じ 16.7 ポイント低下、それぞれ価格低下基調が強まる見通しとなっている。

サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

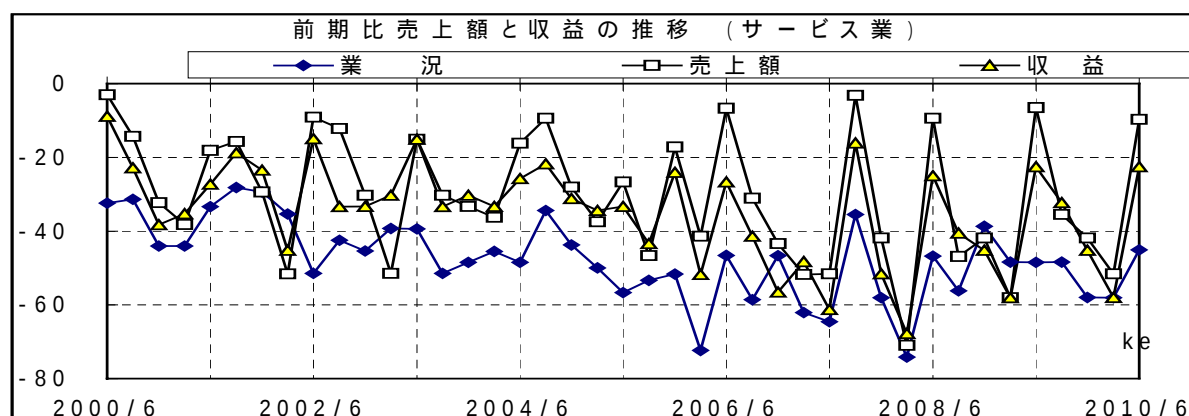
□ 概 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-58.0	-58.1	-45.1	-64.6
売上額	-41.9	-51.6	-9.7	-48.4
収 益	-45.2	-58.0	-22.6	-38.7

今期の業況判断DI値は 45.1 と、前期比マイナス値が縮小し 13.0 ポイントの改善となった。地区別にみると、浦河、静内、三石、様似、えりも地区が改善し、広尾地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 9.7、収益が 22.6 と、前期比それぞれマイナス値

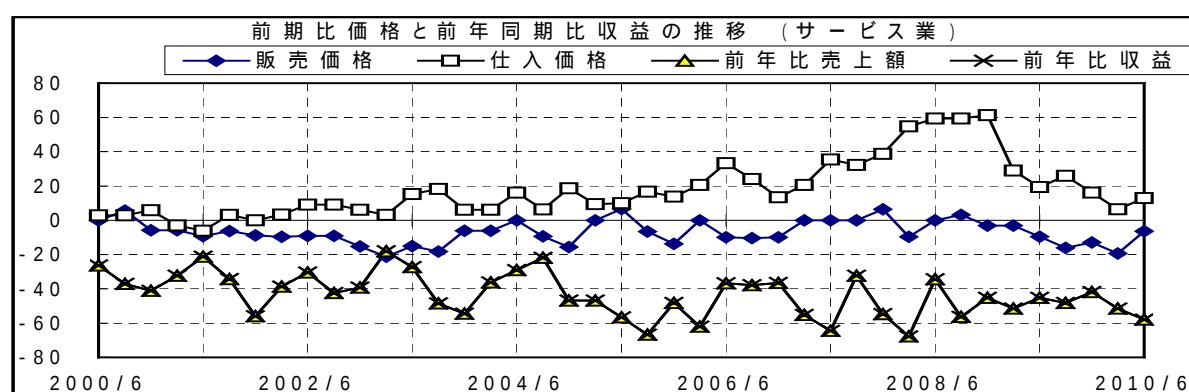
が縮小し 41.9、35.4 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
料金価格	-12.9	-19.3	-6.4	-16.1
材料価格	16.1	6.4	12.9	3.3

料金価格判断DI値(6.4)は、前期比マイナス値が縮小し 12.9 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。材料価格判断DI値(12.9)は、前期比プラス値が拡大し 6.5 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、旅館が料金価格で上昇、材料価格で横ばい、洗濯・理美容が料金、材料価格ともに低下、自動車整備が料金、材料価格ともに上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-25.8	-3.2	-25.8	-22.6
人手状況	-3.2	0.0	3.2	3.2

残業時間判断DI値は 25.8 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 22.6 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 3.2 と、前期比ゼロからプラス値に転じ 3.2 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

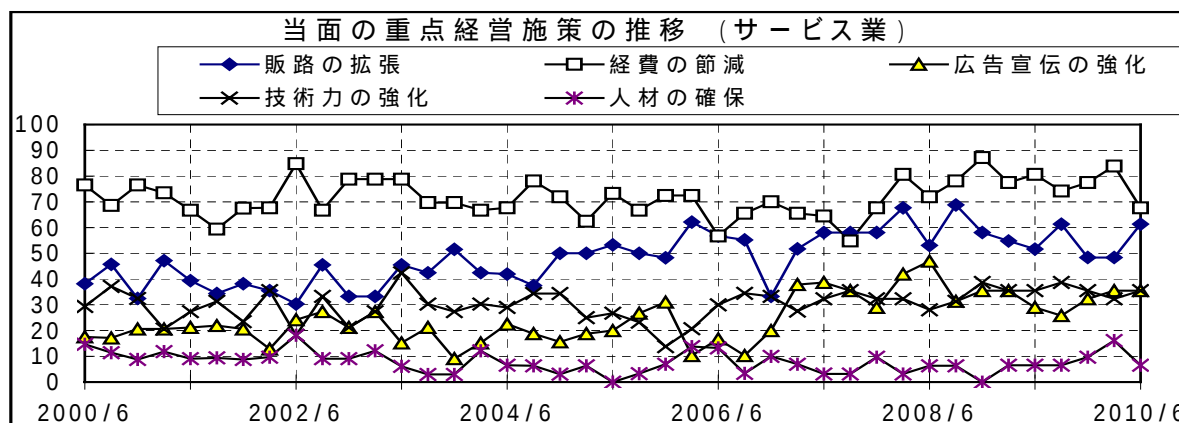
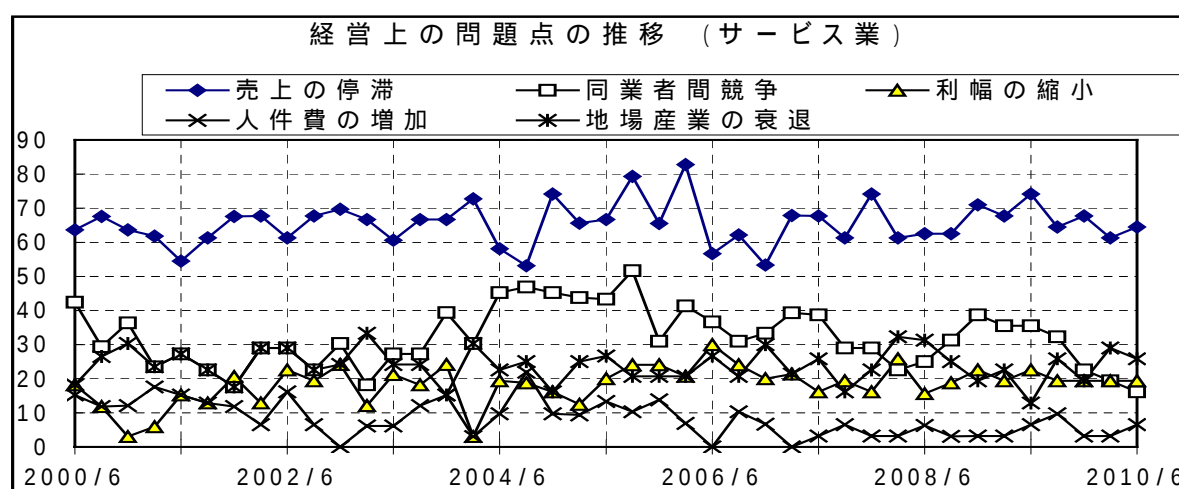
設備投資の充足感を示すD I値は 22.6 と、前期(19.4) からマイナス値が拡大し 3.2 ポイント低下、不足感を強める一方、適正と回答した企業は 71.0%と、前期(74.2%) から 3.2 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 12.9%と、前期(9.7%) 比 3.2 ポイント上昇、件数で前期の 3 社に対し 4 社の実施となった。来期予定は当期比 1 社減の 3 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 64.5%、次いで「商圈人口の減少」35.5%、「取引先の減少」29.0%、「地場産業の衰退」25.8%の順に続き、前期との比較では「天候の不順」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「天候の不順」、洗濯・理美容、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 67.7%、次いで「販路を広げる」61.3%、「宣伝広告の強化」、「技術力を強化する」35.5%の順となっている。業種別にみると、旅館が「販路を広げる」、「宣伝広告の強化」、洗濯・理美容が「経費の節減」、自動車整備が「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成 22 年 7～9 月期)の予想業況判断 D I 値は 64.6 と、今期(45.1)実績比 19.5 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断 D I 値は、売上額が 48.4(今期 9.7)、収益が 38.7(今期 22.6)と、今期実績比それぞれマイナス値が拡大し 38.7、16.1 ポイント低下見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断 D I 値は、料金価格が 16.1(今期 6.4)と、今期実績比マイナス値が拡大し 9.7 ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、材料価格は 3.3(今期 12.9)と、今期実績比プラス値が縮小し 9.6 ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。